

Interview

栄進商事、近畿大、京都薬科大の研究グループ：
カンカエキスに肝保護活性を確認

国際カンカ研究会 村岡 修氏(近畿大学薬学部教授) 吉川 雅之氏(京都薬科大学教授)

2004年の食薬区分改正で非医薬品として記載されて以来、豊かなストーリー性を背景に着実に認知を拡大してきたカンカ。そのカンカの日本上陸当初から、研究を進め、多岐に渡るカンカの機能性を検証してきた村岡氏と吉川氏に、カンカ研究開発の経緯と、今後の展望について話を聞いた。



村岡修教授(左)、吉川雅之教授(右)

—— カンカに着目したきっかけは

村岡 新疆で長寿食として愛用されてきたカンカは、長い食経験により安全性が担保されており、砂漠という過酷な気候条件下で育つため、害虫がいなく、農薬汚染の心配もありません。また、紅柳に寄生して育つという特殊性のために、その増産が砂漠緑化に寄与するという二次効果も地球環境問題の視点から見て意義深いことです。加えて単なる滋養強壮素材にとどまらず、中国では認知症改善薬として上市されるなど、来る高齢化社会を支える健康長寿素材になり得ると感じ、すでにカンカ製品の供給を始めていた栄進商事の協力を得て、機能性の検証をすることにしました。

吉川 近畿大学との共同研究において、カンカエキスに新規活性成分カンカノシドを発見し、血管拡張作用を確認しました。日本薬学会発行の「Chemical & Pharmaceutical Bulletin」では、論文が表紙を飾り、06年に開催された天然物化学国際会議で発表も行いました。

村岡 同じ年、ホータン地区を訪問し、近畿大学は現地政府との間でカンカの学術研究や砂漠緑化を共同で推進するとの提携を交わし、現地に緑化基地を設けて以来、日中の産官学連携事業として注目

されています。07年3月には日中の研究者、企業関係者が発起人となり、国際カンカ研究会を発足させ、これを記念する「第1回国際“カンカ”シンポジウム」を近畿大学で開催しました。これには中国現地政府関係者、研究者、企業関係者を含め約200名が参加、カンカに対する関心の高さを感じました。

—— 今後の展望は

吉川 今年はカンカが大きく飛躍した年と言えるでしょう。国際カンカ研究会の発足、国際カンカシンポジウムのほか、9月には現地ホータンでカンカGMP抽出工場が設立され、我々もその竣工式典に参加してきました。また、カンカの新知見として女性更年期障害の改善、美白効果、免疫増強、性機能増強などが次々と確認されましたが、今回、カンカエキスに肝保護活性を見いだすと共に活性成分の構造活性相関について新たな知見を得ました。これらについては、先月に静岡で開かれた第2回食品薬学シンポジウムで発表したところですが。

村岡 今後も、臨床も含めカンカについての様々な学術的検証を行っていく予定です。また、地球温暖化防止や環境保全に貢献するカンカの研究を今後も積極的に推進していきたいと考えています。